

## 20. アルストロメリア

・殺虫剤（参考農薬）

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
7	ラノーテープ	作物体の付近に設置する	栽培期間中	1回	花き類・観葉植物（施設栽培）

注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。

注2) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

注3) 蚕毒・魚毒については、「24. 花き類の総括注意」も参照する。

病害虫名（F：菌類病、B：細菌病、V：ウイルス病、O：その他の病原体）

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
ウイルス性病 害 (V)	生 育 期 間	1. ウイルス感染苗による伝播は広範囲に及ぶため、無病苗を用いる。 2. アブラムシ類防除のため定期的に殺虫剤を散布する。 3. ハウスの開口部を、防虫ネット(0.8mm 目合い)で被覆する。 4. ハウス周辺の雑草は伝染源になるので定期的に除草する。 5. 罹病株から順次二次伝染が起こるので、発病株は早期に抜き取り、ほ場外に埋却する。	1. 病原ウイルスに、CMV、AIMV及びBBWVなどが知られているが、長野県内の主要なウイルスはAIMVである。また、これらウイルスは全てアブラムシ類により媒介される。 2. これらウイルスの重複感染により病徴が激しく現れるので、アブラムシ類の防除を徹底する。
黄化えそ病 (TSWV) 条えそ病 (IYSV) (V)	植 付 前	1. 無病苗を使用する。	1. 病原ウイルスは、いずれもアザミウマ類により伝搬される。 2. これらのウイルスは簡易診断キットにより診断可能である。
	生 育 期 間	1. ウイルス感染苗による伝播は広範囲に及ぶため、無病苗を用いるようにする。 2. アザミウマ類の飛来・増殖を徹底的に阻止する。ハウスの開口部を防虫ネット(0.4mm 目合い)で被覆すると、侵入を軽減できる。また、「21. 花き類・観葉植物」の項を参考に、殺虫剤を定期的に散布する。 3. ハウス周辺の雑草は伝染源になるので定期的に除草する。 4. 罹病株から順次二次伝染が起こるので、発病株は早期に抜き取り、ほ場外に埋却する。	
灰色かび病 (F)	生 育 期 間	1. 施設内が過湿にならないよう換気を図り、密植を避ける。 2. 株元の枯死葉は伝染源になるので除去する。 3. 発病を見たら、直ちに罹病部を除去する。	
オンシツ コナジラミ	生 育 期 間 (施設栽培)	1. 施設の開口部を防虫ネット(0.4mm 目合い)で被覆する。 2. 黄色粘着トラップを設置して成虫の発生消長を把握する。 3. ラノーテープを10a 当り 50 m <sup>2</sup> (幅5cm×200mを5本)の割合で設置する。	1. ラノーは、蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。 2. ラノーの使用方法和注意事項については、「ラノーテープの使用方法和注意事項」を参照。

### ラノーテープの使用方法と注意事項

ラノーテープは、I G R剤のピリプロキシフェンを含有する黄色テープである。黄色に誘引されテープに接触したコナジラミ類雌成虫は死亡しないが、産んだ卵は孵化が阻害される。その結果、次世代のコナジラミ類の増殖が抑制される。

#### (1) 使用方法

定植後、オンシツコナジラミの発生初期に 10a 当り 50 m<sup>2</sup> (幅 5 cm×200m を 5 本) を設置する。畦に沿って直上部に横断幕のように設置し、アルストロメリアの生長に合わせて高さを順次上げる。

#### (2) 使用上の留意点

ア 施設栽培アルストロメリアでの使用に限る。

イ 使用後に資材（使用済みテープ、巻き芯、空き袋、設置に使用した手袋等）の回収を行うため、地域ごとにまとめて使用することが望ましい。

ウ 1 年の内のある作型に限って使用し、設置期間は最長でも 6 か月以内とする。

エ タバココナジラミバイオタイプ Q には効果が劣るので注意する。

オ 蚕に対して長期間強い毒性があり使用地域の制限（I G R 剤指定地域かつ桑園から 1 km 以上離れた地域）があるので、これ以外では使用しない。

カ 養蚕または桑生産を行っている生産者は使用しない。